

令和6年11月吉日

関係各位

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
会長(都立光明学園 統括校長)島添 聡
社会福祉法人日本肢体不自由児協会
理事長 遠藤 浩
ミラコン 2024～未来を見通すコンテスト
第7回プレゼンカップ全国大会実行委員会
実行委員長(都立墨東特別支援学校長)田村康二郎

ミラコン 2024～未来を見通すコンテスト～第7回プレゼンカップ全国大会
Final Stage 取材 の御案内

平素から 特別支援教育に関心を寄せていただき 誠にありがとうございます。

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会は平成30年度より、GIGA スクール構想に先駆けて、オンラインで全国7ブロックを結び、特別支援学校肢体不自由教育部門で学ぶ高校生のプレゼンテーションの大会を開催しています。

令和2年度第3回大会より、文部科学大臣賞が創設され、また、前大会より日本肢体不自由児協会と校長会による共催となり、更なる生徒の活躍の場を広げるべく、事業を推進しております。

肢体不自由のある生徒が参集するには移動手段が最大の課題となる中で、オンラインを活用して自らが考える未来への提言を発信するという経験は、全国7ブロックの地方大会を勝ち抜いてきた代表者のみに与えられる栄誉でもあります。

「障害者週間」(12月3～12月9日)に続き、令和6年12月11日に開催する第7回大会は、文部科学省、こども家庭庁、東京都教育委員会の御後援をいただき、関係の皆様御協賛のもと、心身障害児総合医療療育センター療育研修所を会場にして全国をつなぎます。

ぜひ、御来場いただき大会を取材いただければ幸いです。

記

日時 令和12月11日 水曜日 午後1時30分から午後3時30分まで
会場 心身障害児総合医療療育センター療育研修所 (東京都板橋区小茂根1-1-10)
(最寄り駅:地下鉄「小竹向原駅」3番出口より徒歩10分)
大会内容 全国7ブロック代表生徒による未来への提言の発表、質疑応答、表彰

※不明な点はお問い合わせください。

<お問い合わせはこちらまで>

ミラコン2024全国大会事務局

東京都立大泉特別支援学校

校長 花田 妙子 (電話 03-3921-1381)

社会福祉法人日本肢体不自由児協会

事業推進部 伊賀 寛 (電話 03-5995-4511)

ミラコン～未来を見通すコンテスト～

“視点を価値に、経験を未来に”

第7回プレゼンカップ全国大会

Final Stage (全国大会審査・結果発表)

令和6年12月11日(水)

午後1時30分～午後3時30分

本会場：心身障害児総合医療療育センター

療育研修所

サテライト会場：ブロック代表出場校

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
社会福祉法人日本肢体不自由児協会

ミラコン～未来を見通すコンテスト～

“視点を価値に、経験を未来に”

第7回プレゼンカップ全国大会

Final Stage / 全国大会最終・結核発表

令和6年12月11日(水)

午後1時30分～午後3時30分

会場：心身障害者療育医療センター
研修棟特設ステージ

会場：心身障害者療育医療センター
研修棟特設ステージ

主催：全国特別支援学校校長会
協賛：社会福祉法人日本特殊不自由児協会

協賛：社会福祉法人日本特殊不自由児協会



令和6年12月11日（水） 13：30～15：30
心身障害者療育医療センター療育研修棟
特設ステージ

当日は全肢長加盟校に限定ライブ配信予定



会場の紹介

**ミラコン共催者である社会福祉法人日本肢体不自由児協会が
厚生労働省の委託を受けて運営しているセンターです**

「整肢療護園」創設

当センターは日本で最初の肢体不自由児施設「整肢療護園」を発足の母体としています。「整肢療護園」は故高木憲次博士（東大名誉教授、整形外科）の大正時代からの熱意と努力により昭和17年5月に創設されました。

「療育」という言葉は今日では広く用いられていますが、これは障害児には、医療・教育・職能の賦与を三つの柱として生活すべての面にわたる総合的な指導が必要だとして高木先生が創られたものです。

その後第二次大戦中の東京大空襲により施設の大部分を失ったため、細々と療育の燈火をつなぎながら、高木憲次博士が国立肢体不自由児施設の設置を粘り強く要望しました。その結果、国は国費にて昭和26年10月に整肢療護園を開園して、日本肢体不自由児協会に運営を委託し、国立・民営といういわゆる「国のモデル施設」として設置され、運営が開始されました。

心身障害者療育医療センター ホームページより抜粋



肢体不自由児療育の父、高木憲次先生

日本肢体不自由児協会設立80周年・整肢療護園創立80周年記念事業として、高木憲次記念ミュージアムが令和4年10月に設置されました。



心身障害者療育医療センター ホームページより抜粋

ミラコン2024 第7回プレゼンカップ 全国大会 ブロック代表作品一覧

ブロック	地区	氏名	学校名	学年	プレゼンタイトル	作品紹介	応募生徒数 70名 (32校)
1	北海道 東北	タカハシ キカ 高橋 来華	青森県立 青森第一高等養護学校	3	「荷物を運びやすくするための 小さな工夫」	高校3年生ということもあり、より実生活に結びついたプレゼンにしました。今回は、これまでの車いす生活での不便さを解消するために、すぐにも実行できそうな小さな工夫を提案しました。	6名 (2校)
2	関東 甲越	ナカムラ サアサ 中村 紗愛耶	群馬県立 あさひ特別支援学校	1	「移動手段を広げるために！」	私は公共交通機関を利用する体験を重ねることで、自分の行動範囲も広がるのではないかと考えました。そこで、夏休みに家族に見守ってもらう形で鉄道の利用にチャレンジしました。実際に利用してみると、便利だと感じることも多い一方で、もう少しの工夫で車椅子利用者がより利用しやすくなると感じることもありました。一人で外出することに不安があり、出かけたくても出かけられないと感じている人に聞いていただきたいです。	26名 (8校)
3	東京	ノイズ ローラ萌生 キクチ 菊池	東京都立 城南特別支援学校	3	「本当の身体障がい 体験アトラクション」	私はどうしたら健常者によりリアルな身体障がい体験をさせられるのかを考えました。その結果、アトラクションにして実感がないうちに楽しく体験することが一番印象に残るのではないかと思います。一般的な「車椅子に乗って移動する」体験などは、序の口であり、それだけで「身体障がいを体験した」とは絶対に思ってほしくありません。私の今回の作品をきっかけにして「本当の身体障がい体験とは何か？」と考え直してほしいです。	16名 (7校)
4	中部 北陸	オオタ コウト 太田 結人	愛知県立 港特別支援学校	1	「社会課題の解決は 私たちの手で！」	高等部に入學して、商業科の先輩たちがSDGsに関する活動として、「おむつによるCO2の削減」を目指していることが分かりました。私もとても大切なことだと思いました。社会の一員として私たち自身も変わる必要があります。代替手段があることも知ったからです。同じ障害がある人たちも知らない人が多いと思います。そこで、皆さんに考えてもらいたいと思い、この提言にしました。私たちの課題は私たちの手で解決したいです。	11名 (5校)
5	近畿	アダチ コウキ 足立 幸気	京都府立 丹波支援学校	3	「誰もが、自分のやりたいことを できる社会にするために」	様々な見方や考え方のある社会で将来の夢を叶えたいと決意し、誰もが安心して安全に仕事ができる方法を考え、提案します。	2名 (2校)
6	中国 四国	ヒョウドウ サヤ 兵頭 紗弥	愛媛県立 宇和特別支援学校 肢体不自由部門	2	「車椅子の人に移動手段を」	私は一人で出掛けることができません。だから、家族に車で連れて行ってもらっています。しかし、このままでいいのでしょうか。田舎にいても、車椅子に乗っていても、好きなところに一人で行きたいです。そして、リモートではなく、職場に行きたい仕事が見たい！それが私の希望です。今回のプレゼンでは、自分で絵を描いたり、写真を入れたりして見やすくなるように工夫しました。初めての経験で緊張しましたが頑張りました。	3名 (3校)
7	九州	モリヤマ ヒロマサ 森山 大誠	長崎県立 諫早特別支援学校	3	「ICT活用しようや ～タブレット受験を通して～」	私の鉛筆の代わりとなり学習・試験をサポートし、私自身の可能性を大きく広げてくれたタブレット。その試験利用とICTのさらなる活用について、私が考えたことを表現した。内容の構成やスライドの要素に悩み、それらが伝わりやすく見やすいものとなるように工夫を重ねた。今回多くの人に見てもらおうことで、まだまだ利用できるICTの可能性を訴えたい。この作品が、誰もが不自由なく過ごせる情報社会への一助となしてほしい。	6名 (5校)